



No.38 2010.05

土木史フォーラム

Newsletter of Committee on Historical Studies in Civil Engineering
Japan Society of Civil Engineers

目次

委員長から	土木史フォーラムの Web 化に関する運営方針について	鈴木 圭	1
フォーラム	—なぜ、今、近世以前の土木遺産なのか?—	馬場 俊介	2
地域のニュース	四万十川流域の文化的景観を未来につなぐ為に 東京地盤沈下の生き証人を救え	矢野由美子 伊納 浩	4 5
文化財ニュース	文化財となった土木関連建造物等一覧	北河大次郎・阿部 貴弘	5
学会の動き	第 29 回土木史研究発表会報告 第 30 回土木史研究発表会のお知らせ		7 7
土木史関係図書		横松 宗治	8

委員長から

土木史フォーラムの Web 化に関する運営方針について

土木史フォーラム小委員会委員長 鈴木 圭

土木史フォーラム小委員会では土木史フォーラムの Web 化に関する課題と運営方針について検討致しました。以下にそのご報告と、Web 化とともに紙面での発行を継続するために読者の皆様へのお願いをしなければなりませんので、ご理解を頂きたくお願い申し上げます。

Web 化の背景として第一に学会員の退会に伴い土木学会の全体予算が縮小したこと、第二に土木史研究発表会の参加者が少なく、委員会予算だけでは土木史フォーラムの発行が困難であることです。一方、土木史フォーラムの発行は、紙面で年 2 回発行していましたが、時期に適した情報を発信できていないこと、情報が一方向であり、幅広い関係者との交流の場になっていないこと、さらには若年のエンジニアの方々が気軽に意見を述べる場、交流の場としての機能が十分ではないとの反省点が挙げられております。

こうした問題を解決するために、土木学会のホームページを活用して幅広く土木史に関する情報を発信しようと考えております。運営方針として、中堅、若手のライターを発掘し、以下に示す 8 つのテーマについて皆様のご意見を投稿して頂き、意見を交換しながら、土木史を活用する知恵を集積したいと考えております。

なお、このテーマについては、第 30 回土木史

研究発表会で皆様と一緒に意見を交換したいと思います。

ホームページでの掲載テーマ

1	土木遺産に感心のある市民に対して
2	土木遺産を観光目的として活用する
3	まちづくりの対象として活用する
4	初期教育で学生に土木に興味を持たせる
5	研究目的とした研究者・学生に向けて
6	近代以前・土木遺産の保全に向けて
7	選奨土木遺産の再評価について
8	新しいアイデアを探る実務者に向けて

Web 化と紙面発行を継続することを想定して、読者の皆様に年会費 1,000 円の協賛金の募集をお願いしたいと考えております。5 回支払って頂いた方は、永久会員制度とすることなど、現在検討しておりますので、詳細につきましては、第 30 回土木史研究発表会の場で、皆様のご意見を伺いした上で、再度お知らせ致します。

土木史が私達の土木の文化を継承し、若手のエンジニアの育成においても不可欠であることを認識し、さらに土木史研究委員会が今後さらに活性化することを願いながら、土木史フォーラム小委員会委員一同一丸となって努力する所存です。

—なぜ、今、近世以前の土木遺産なのか？—

岡山大学大学院 教授 馬場俊介

平成3年に私が、中部5県の近代土木遺産調査を始めた時点では、土木史研究委員会（幹事会）の雰囲気も、文化庁の建造物課（当時の名称）の雰囲気も、「近代の土木遺産は破壊の危機に瀕していて、即刻調査・価値付け・保存にかからないと、わが国の近代の国づくりを支えた貴重な遺産がなくなってしまう」という認識でした。それが、平成5～10年の長きにわたって、土木史研究委員会の中に小委員会を設けて全国各地を手分けして調査した理由でもありました。その最終成果品である『日本の近代土木遺産—現存する重要な土木構造物 2000 選』が2000年度末に土木学会から刊行され、同時に、土木学会選奨土木遺産の制度も発足しました。これにより、土木行政の間にも、「近代土木遺産は重要な存在なので、壊す前に考えてみよう」という風潮が、ある程度定着してきたように思います。

ところが、この10数年を振り返ってみると、高度成長期が終わった後に破壊・喪失の憂き目に遭ってきたのは、実は近代土木遺産ではなく、むしろ、それ以前の土木遺産であったことが明らかになってきました。近世以前といえば、完成後最短でも150年は経っているのに、「今まで壊されてこなかったなら、この先壊されることはない」と思い込んでいましたが、それは大きな間違いでした。確かに、戦前に、一里塚の一部は史跡、松並木の一部は名勝指定され、九州の石橋の一部も何らかの指定を受けてはきました。戦後になって指定されたものもあります。しかし、それらはごく一部にすぎず、近年の圃場整備事業によって近世以前の基幹産業であった農業遺産（堰、樋門、隧道、橋、水路）は壊滅的な打撃を受け、港湾遺産も漁港整備事業によって防波堤、雁木、護岸などが失われてきました。戦前指定の一里塚は荒れ放題で、未指定の立派な一里塚は存亡の危機に瀕し、松並木は東北北部以外松枯れで姿を消しました。この時期の土木遺産対して、文化庁の調査が行われていないため、多くの地方行政もこれらの土木遺産の把握に不熱心で、このまま放置しておけば、近代土木遺産より先に、近世以前の土木遺産の方が早く姿を消してしまう危険性すら見えてきました。

そこで、私の研究室では、平成18年から近世以前（江戸～古代）の土木遺産の全国調査を単独で始めることにし、トヨタ財団等の資金援助により、平成21年9月の時点での有効データは6128件に達し

ました（日々増加しているのが現状です）。その中で、現地調査地点は、11月の時点で1318か所となっています。近世以前の土木遺産は、大きく分けて、①**交通遺産**【街道〔石アーチ橋、石桁橋、石刻橋、石畳・石段、一里塚、並木、隧道、切通し、常夜灯、道標、境界石、石敢當、渡し場など〕、河川舟運・運河〔舟着場、雁木・護岸、水制、常夜灯、川浚い遺構、運河、閘門など〕、港湾〔舟着場・舟蔵、雁木・護岸、防波堤・防砂堤、掘込港湾・突堤、舟繫石、方角石、常夜灯など〕】、②**産業遺産**【農業〔取水堰（地下取水堰を含む）、溜池（土堰堤）、用水路（隧道、切通し、サイフォン、水路橋）、溜井、水門（分水樋門、排水樋門）、干拓施設（締切堤防、排水樋門）、クリーク、特殊田（条理遺構、井田、車田、掘り下げ田）、棚田石垣、猪垣など〕、飼馬業〔牧堤、駒追込場など〕、漁業〔舟屋、舟揚げ場、雁木、防波堤、魚垣、捕鯨関連施設〕、製塩業〔樋門、入り浜式塩田の水路用の橋〕、鉱業〔露天掘り、坑道（間歩）、油田、各種炉など〕】、③**防災遺産**【河川〔堤防（石堤、輪中堤）、遊水池（霞堤、大水尾）、水制（猿尾、荒籠）、放水路（洗堰、排水樋門）、郡境目当の石、助命壇、水神信仰に関わる遺構、砂防堰堤（砂留）など〕、海岸〔防波壁、防風壁、防風林、防砂林、防潮林など〕】、④**生活遺産**【上水・井戸〔上水路、井戸（石枠井戸、まいまいず、ヒージャ）、湧水など〕、その他】、⑤**軍事・行政遺産**【台場、防塁、陣屋、狼煙場、遠見台、測量用基準石（印部石）、星見石など】の5項目になります。これらは、近代土木遺産と同じくらい地域的特徴があり、近代土木遺産に比べてずっと地域と風景に馴染んでいて、周辺との違和感もなく、見るだけで心安らぐものが多いのです。近世以前を始める前までは、近代土木遺産の虜になり、全国を見て歩いたものですが、一度近世以前の世界に足を踏み入れると、その自然体の魅力に惚れ直し、今では、近くに近代土木遺産があっても見向きもしないまでになってしまいました。西洋文明の奢り、近代化に邁進した当時の日本の背伸びのようなものなど一切感じさせず、昔ながらのわが国の姿があるからです。

この美しくも、わが国独自の文化を伝える近世以前の土木遺産は、果たして、今後どうすれば守っていけるのでしょうか？ 答えはよく分かりません。私個人としては、研究室で専用のウェブサイトを立ち上げ（<http://kinsei-izen.com>）、写真付きで、徐々

に公開を始めていますが、それが保存にどの程度の影響するものなのか、全く予想がつきません。それは、土木史研究委員会との連携がとれなくて、実効性が必ずしも保証されていないからです。願わくば、土木史研究委員会や選奨土木遺産選考委員会も、近世以前の土木遺産の多様で奥深い魅力を再認識されて、保存・活用に乗り出していただけるとありがたいのですが。



志苔館 (北海道函館市、1456 年)



黒沢峠敷石道 (山形県小国町、1867 年)



笹川の川廻し (千葉県君津市、江戸末期?)



長沢「フロノ下」の猪垣 (愛知県豊川市、18 世紀初頭)



四ツ子川の百間堤 (滋賀県大津市、1858 年頃)



建部井堰 (岡山県岡山市、1661 年説)



池田の棧敷 (香川県小豆島町、1855 年以前)



川原隧道 (大分県日田市、1832 年)



ビッチュルムリイ (沖縄県石垣市、琉球王国時代)

四万十川流域の文化的景観を未来につなぐ為に

『日本最後の清流』四万十川

高知県西部を流れる四万十川は、幹川流路 196km、高知・愛媛両県にまたがる流域面積 2270 km² の約 90% が森林に覆われている。そして、その山間を縫うようにゆっくりと流れるこの川は、源流点のある津野町不入山中腹に始まり、大きな蛇行を繰り返しながら、多くの支流を集めて大河となり、やがて四万十市で土佐湾へと注ぐ。

この四万十川が全国的にその名を知られるようになったのは、昭和 58 年 NHK 特集『土佐四万十川～清流と魚と人と～』の中で『日本最後の清流』と紹介されてからである。それ以来この川は、『日本の清流』の代名詞となった。そこには、水質の良さもさることながら、魚が棲み、自然が保たれ、住む人達がこの川と密接に関わっているということが理由にあげられるようだ。そして、日本一と言われる魚類の多さ（この 8 月に 199 番目の魚類トゲナガユゴイが見つかった）と漁業資源の豊かさ故に、今なお川で生計を立てる川漁師が存在する、数少ない日本の川の一つでもある。（写真 1）

沈下橋のある風景

その四万十川の風景の中に必ずと言ってよいほど登場する“沈下橋”。その自然と調和した構造物は、四万十川の景観を彩っている。（写真 2）

大水の時には水面下に沈む欄干のないこの橋は、水面までの距離が短く、橋の上に立てば水の様子がつぶさに見て取れる。沈下橋は、集落と集落をつなぐ生活道の役割以外に、憩いの場として、また夏場には子供達の遊び場として、流域の人々の生活には無くてはならないものである。（写真 3）

1999 年高知県の調査によれば、沈下橋は全国の一級河川とその支流の合計 410 カ所に存在し、そしてそのうち 60 以上が、四万十川流域にあるという。

1998 年 7 月、高知県では沈下橋が生活・文化・景観・親水等の観点から重要な役割を担っていると考え、「防災上、維持管理上支障のない沈下橋は保存を

財団法人 四万十川財団 矢野由美子
基本とし、生活道に加え生活文化遺産として後世に引き継ぐ」とした「四万十川沈下橋保存方針」を策定した。これにより、四万十川にある 60 余りの沈下橋のうち、市町の道路・農道・林道台帳に記載され管理者がはっきりしているもので、本流に 21 橋、支流に 26 橋の合計 47 橋については、重点的に保存・維持管理する方針がとられることとなった。

重要文化的景観の選定

2009 年 2 月、これら沈下橋を含む四万十川流域の景観が、『重要文化的景観』として国の文化財に選定された。我々の祖先が、昔は誰しもそうであったように、山や川や海から恵を得て、それ故に山を川を海を崇め、そして人と自然とが近い距離にあったその時代を彷彿とさせる、そんな日本の原風景がここには広がるのだという。

そもそも『重要文化的景観』とはどういう文化財なのであろうか。従来の文化財は、どちらかと言えば、庶民の生活からは遠くにあったと言えるのかもしれないが、この『重要文化的景観』は日々の生活に根ざした身近な景観であるため、逆にそこに住む人々は、日頃その価値にはなかなか気付きにくい。今まで生活の一部であった見慣れた風景が、「実は文化的な価値があるのですよ、と突然に言われましても…」というところが本音なのかも知れない。

そして四万十川流域も、日本の多くの農山村集落同様に過疎と高齢化の波が押し寄せている。「この地には何も良いものがない」ではなく、住民自らがその価値に気付き、自らの手でその価値を守り継承して行く、そのことの必要性をこの重要文化的景観の選定が気付かせてくれたと言えるのかも知れない。

四万十川財団では流域住民と共に、この川とその流域の景観を未来につなぐ為に、人と自然が作り上げてきた景観の価値を再確認し、農林水産業の活性化、地域コミュニティ推進、そして新たな生業を生み出す可能性を考え、未来への継承と全国に向けた発信に取り組んでいる。



写真1 鮎漁（友釣り）



写真2 岩間沈下橋



写真3 沈下橋

地域ニュース

東京地盤沈下の生き証人を救え

(株)地域開発研究所 伊納 浩

東京の地盤沈下

東京平野部の地盤沈下は、明治末頃から始まったと言われ、地下水の過剰汲み上げや地下に眠っていた天然ガスの大量採取が原因とされています。

地盤沈下は、時には1年で20cm以上も下がる程の勢いで進み、東京平野部の低地一帯には、昭和30年半ば頃から“ゼロメートル地帯”が出現してきたと言われます。

一方、昭和36(1961)年に工業用水法によって地下水の揚水規制が始まり地盤沈下に対する対策が進められています。

なお、現在でも地盤沈下は場所によっては年1cm程度は沈下していると言われます。

教科書でもみる井戸が危ない

このような東京の地盤沈下を象徴的に現すの

が、学校の教科書等にも取りあげられることがある『葛飾区新小岩1丁目の東京都第五建設事務所玄関前にある井戸』です。

この井戸は、昭和13年(1938)設置されたもので、長年の地盤沈下のために抜けあがってしまったものです。抜けあがった部分には、沈下量が分かるように目盛があり、ひと目で地盤沈下の恐ろしさを実感できる貴重な歴史的な構造物です。

しかし、写真のように井戸の一部では腐食が進み、このままでは倒れる危険性があると思われます。

この井戸は、現在の場所で“抜けあがった”ものであり、倒れて井戸の高さが変わったり、設置されている位置が変わったりしては、歴史的な価値が失われる恐れがあります。

そこで、この井戸を現状のままで補修(補強)しながら保全していくことが重要であると考えています。



腐食が進み、鉄管に大きな穴が空いている

文化財ニュース

文化財となった土木関連建造物等一覧

重要文化財 平成21年10月答申分

所在地	名称	建設年代	特徴等
青森県 むつ市	旧大湊水源地道施設	明治35・明治42・明治43	艦船補給用水の確保を主な目的として、横須賀鎮守府経理部建築科の計画及び設計により、明治35年から43年にかけて建設。東北地方で最初に建設された近代水道施設であり、近代水道史上、高い価値がある。また、第一引入口及び沈澄池堰堤は、それぞれ特徴的な構法によって築かれた精緻な石造構造物で、明治後期における石造河川構造物の技術水準を示すものとして重要。
福岡県 志免町	旧志免鉱業所堅坑槽	昭和18	艦船用石炭及び海軍工廠等で使用する工場用石炭の採掘施設として、第四海軍燃料廠採掘課の計画及び設計に基づき建設。堅坑槽の中で最も発展した形式である「塔槽巻型」の堅坑槽のうち、近代に建設されたわが国で唯一の現存遺構として貴重である。また、わが国近代の鉄筋コンクリート造構造物の中で、地上47.6mという有数の高さを誇る高層構造物であり、近代建設技術史上、価値が高い。

登録有形文化財 平成21年6月答申分

所在地	名称	建設年代	特徴等
山形県 最上郡 大蔵村	肘折砂防堰堤	昭和27	最上川水系銅山川に築かれた堤長182mの重力式コンクリート造堰堤。国直轄事業により建設され、今も肘折温泉街を土砂災害から守る。
埼玉県 所沢市	旭橋	昭和5	荒川水系東川に架かる橋長10m、幅員12mの鉄筋コンクリート造単

				桁橋。旧所沢飛行場へ通じる「飛行機新道」に建設された近代橋梁。
山梨県	笛吹市	屋敷入沢第七号石堰堤	明治 43	富士川水系に築かれた、堤長 66m の空石積による石造堰堤。
鳥取県	日野郡 江府町	旧江尾発電所本館	大正 8／平成 12 改修	変圧室と発電機室からなる旧水力発電所施設で、外壁に江戸切仕上げの切石を積み、重厚な外観とする。
広島県	神石郡 神石高原町～ 庄原市	神龍橋(旧紅葉橋)	昭和 5／昭和 60 移設	帝釈川ダムのダム湖に架かる橋長 84m の鋼製単トラス桁橋。建設当時、単純トラスの道路橋としてわが国最大径間を実現した大規模鋼橋。
愛媛県	新居浜市	旧別子鉱山鉄道端出場鉄橋(足谷川鉄橋)	明治 26	端出場鉄橋は原位置に残る数少ないドイツ製橋梁の一つで、端出場隧道は丁寧に作られた煉瓦造隧道。いずれも新居浜と端出場を結ぶ旧別子鉱山鉄道施設。住友の旧宿泊施設である旧泉寿亭特別室棟も残る。
		旧別子鉱山鉄道端出場隧道	明治 26	
		旧泉寿亭特別室棟	昭和 12／平成 3 移築改造	
愛媛県	新居浜市	山根競技場観覧席	昭和 3／昭和 62 改修	鉱山職員の労働奉仕により築かれた玉石積による階段状の構造物。
愛媛県	新居浜市	旧山根製錬所煙突	明治 21	煉瓦造、高さ 19m、四角形平面とする低品位鉱の旧製錬所施設。

登録有形文化財 平成 21 年 9 月答申分

所在地	名称	建設年代	特徴等
青森県	八戸市	旧島守発電所本館	大正 3／昭和 30 改修
		旧島守発電所水槽	大正 3／昭和 30 増設・昭和 48 改修
		旧島守発電所水圧鉄管路	大正 3
		旧島守発電所余水路	大正 3
栃木県	日光市	わたらせ渓谷鐵道第一松木川橋梁	大正 3
		わたらせ渓谷鐵道足尾駅本屋及び上り線プラットホーム	大正元／昭和 13 改修
		わたらせ渓谷鐵道足尾駅貨物上屋及びプラットホーム	大正元
		わたらせ渓谷鐵道足尾駅下り線プラットホーム	大正元
		わたらせ渓谷鐵道足尾駅手小荷物保管庫	昭和 10
		わたらせ渓谷鐵道足尾駅危険品庫	大正 3
		わたらせ渓谷鐵道渋川橋梁	大正元
		わたらせ渓谷鐵道通洞駅本屋及びプラットホーム	大正元／昭和 11 改修
		わたらせ渓谷鐵道通洞橋梁	大正元
		わたらせ渓谷鐵道有越沢橋梁	大正元
		わたらせ渓谷鐵道第二渡良瀬川橋梁	大正元
栃木県 群馬県	日光市 ～ みどり市	わたらせ渓谷鐵道笠松トンネル	大正元
群馬県	みどり市	わたらせ渓谷鐵道吉ノ沢架橋	昭和 10
		わたらせ渓谷鐵道名越トンネル	大正元
		わたらせ渓谷鐵道沢入駅上り線プラットホーム及び待合所	大正元・昭和 4
		わたらせ渓谷鐵道沢入駅下り線プラットホーム及び待合所	大正元・昭和 2
		わたらせ渓谷鐵道神戸駅本屋及び下り線プラットホーム	大正元／大正 12 増設・昭和 5・昭和 30 頃改修
		わたらせ渓谷鐵道神戸駅休憩所	昭和 3
		わたらせ渓谷鐵道神戸駅危険品庫	大正元
		わたらせ渓谷鐵道神戸駅上り線プラットホーム	大正元／大正 12 改修
		わたらせ渓谷鐵道第二神土トンネル	大正元／昭和 29・昭和 33 増設
		わたらせ渓谷鐵道第一神土トンネル	大正元／昭和 4・昭和 33 増設

		わたらせ渓谷鐵道小中川橋梁	大正元	治中期にわが国で盛んにつくられた鍊鉄製桁橋の構造形式を踏襲する。水沼沢橋梁と江戸川橋梁は、それぞれ橋長5.8m、5.6mで、いずれもIビームを用いた鋼製単桁橋。明治・大正期の標準設計Iビームとしては最大級の規模を誇る。唐沢橋梁は、桁下高を確保するために、枕木上にレールを置かず、2本のIビーム主桁の間にレールを挟み込み、それを横桁で直接支持するトラフガーダー形式の鋼製桁橋。城下トンネルは単線仕様の直線状のトンネルで、明治31年に国が示した標準設計とほぼ同じ断面をとる。第一・第二・第三神梅トンネルは、それぞれ延長166m、27m、15mの煉瓦造トンネルで、各坑門に異なる石積方法を用いる。これらのトンネルは、渡良瀬川沿いの溪谷に連続的に築かれ、鉄道と自然が織りなす歴史的景観に寄与している。手振山架樋は、古レールを用いた支柱と柱を一体化した鋼製構造物に、延長14mの鉄筋コンクリート造の樋を載せ、さらにその上部にラッパ形平面の集水路を連続的に築く特徴的な構造をもつ工作物。機能は吉ノ沢架樋と同様である。大間々駅は、昭和16年に改築された駅舎とプラットホームよりなる。
		わたらせ渓谷鐵道唐沢橋梁	昭和11	
群馬県	みどり市 ～ 桐生市	わたらせ渓谷鐵道小黒川橋梁	大正元	
群馬県	桐生市	わたらせ渓谷鐵道水沼沢橋梁	大正元	
		わたらせ渓谷鐵道不動沢橋梁	大正元/昭和12改修	
		わたらせ渓谷鐵道江戸川橋梁	大正元	
		わたらせ渓谷鐵道城下トンネル	大正元	
		わたらせ渓谷鐵道城下橋梁	大正元	
群馬県	桐生市 ～ みどり市	わたらせ渓谷鐵道深沢橋梁	大正2/昭和13・昭和14・昭和23改修	
群馬県	みどり市	わたらせ渓谷鐵道第三神梅トンネル	大正元/昭和12増設・昭和49改修	
		わたらせ渓谷鐵道第二神梅トンネル	大正元/大正14増設	
		わたらせ渓谷鐵道第一神梅トンネル	大正元/昭和49改修	
		わたらせ渓谷鐵道手振山架樋	昭和5	
		わたらせ渓谷鐵道大間々駅本屋及び下り線プラットホーム	昭和16・明治44/昭和4改修・昭和中期増築	
		わたらせ渓谷鐵道大間々駅上り線プラットホーム	明治44/昭和55改修	
長崎県	長崎市	中川橋	大正7	長崎街道に建設された、橋長14mで丁寧な造りの石造単アーチ橋。

学会の動き

第29回土木史研究発表会報告

平成21年7月4・5日の2日間、第29回土木史研究発表会が北海道教育大学函館校にて開催された。発表会前日の見学会や、開港150年記念講演会など、土木史関係者以外にとっても興味深い企画も併せて催された。発表内容は、河川や橋梁などの史的研究から、土木史では珍しい動物実験を対象としたものまで、多岐にわたる話題が提供された。しかし、発表者、参加者数は例年を大

幅に下回り、特に学生の姿が少なかったことは悔やまれる。次回は平成22年6月19・20日、日本大学駿河台キャンパスにて開催予定であり、錦帯橋や関東大震災復興80周年に関するセッションも企画されている。読者の皆様には、多数の論文投稿を期待するとともに、気軽に会場に足を運んでいただきたい。

第30回土木史研究発表会のお知らせ

1. 主催：土木学会

(担当：土木史研究委員会 <http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/index.htm>)

2. 期日：【研究発表会】2010年6月19日(土)・20日(日)

3. 会場：日本大学理工学部 駿河台キャンパス 1号館2階

交通案内：JR中央・総武線「御茶ノ水」駅 下車徒歩3分

東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅 下車徒歩3分

東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅 下車徒歩5分

(駅からのアクセス及び発表会・懇親会会場は <http://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/index.html> をご参照ください。)

4. 参加費：会員、非会員：5,000円 学生会員：2,000円

論文集および講演集販売：合冊(論文集Vol.29+講演集Vol.30)：6,000円

論文集のみ：2,000円 講演集のみ：4,500円

※当日会場にて申し受けます。

5. 懇親会：1) 日 時：2010年6月19日(土) 18:30～20:00

2) 会 場：日本大学理工学部 駿河台キャンパス 5号館1階

3) 参 加 費：4,000円程度を予定

4) 参加方法：当日会場にてお申し込み下さい。

書名	著者・編者	発行所・発行日	定価(税込)
城と城下町 築城術の系譜	高見敏志著	技報堂出版・2009年7月	¥ 1,995-
近世城下町の計画原理としての「大和三角形」について詳述する。土木学会編「明治以前日本土木史」、宮本雅明著「都市空間の近世史研究」と合わせて、我が国の都市の空間的な骨格が見えてくる。			
水の匠・水の司 “紀州流” 治水・利水の祖 井澤弥惣兵衛	高崎哲郎著	鹿島出版会・2009年6月	¥ 2,520-
高橋による“日本土木史・技術者シリーズ”の新著である。徳川吉宗期以降の新田開発紀州流土木技法の指導者の史伝。歴史資料も豊富である。			
オランダの持続可能な国土・都市づくり 空間計画の歴史と現在	角橋徹也著	学芸出版社・2009年10月	¥ 3360-
土木史としては第1部「国土づくりの歴史」を読みたい。干拓が緻密な計画学(Plannology)と合意形成プロセスの発達を促した。土木技術が近代社会の思想的な基盤を形成する事例を学ぶ。			
復刻版 日本の広場	都市デザイン研究体編著	彰国社・2009年4月	¥ 2,310-
日本史リブレット 93 近世の淀川治水	村田路人著	山川出版社・2009年4月	¥ 840-
豊臣期より幕末まで。淀川治水施設の図面を示し、管理方式を詳細に述べる。			
歴史のなかの狭山池 最古の溜池と地域社会	市川秀之著	鹿島出版会・2009年4月	¥ 5,040-
狭山池の歴史と発掘の成果から断面、関連施設を述べる。さらに地域社会の歴史にも拡がる。			
改訂版 台湾を愛した日本人ー土木技師八田與一の生涯	古川勝三著	創風社出版・2009年4月	¥ 2,310-
北垣国道日記「塵海」	塵海研究会編	思文閣出版・2010年2月	¥ 9,800-

編集後記

38号は本来、2009年12月に発行する予定でしたが、本誌のWEB化問題などから発行が遅れ申し訳ありません。

また、毎年7月に開催されていた土木史研究発表会は、今年1ヶ月早まり6月開催のため、プログラム内容の整理が進まず、皆様への情報提供が不十分になったこともお詫びいたします。プログラム内容につきましては、土木学会HPの土木史研究委員会を見てご確認いただければと思います。

なお、38号からは土木史フォーラム小委員会委員長に鈴木圭を迎え、土木史フォーラム小委員会委員一同が一丸となって努力する所存です。

(伊納)

土木史フォーラム No. 38

監 修：土木学会土木史研究委員会

発 行：土木史フォーラム小委員会
代表者 鈴木 圭 鹿島建設(株)

事務局：伊納 浩 (株)地域開発研究所
TEL.03-3831-2844 FAX.03-3831-2620
Email: inou@rdco.co.jp

土木史フォーラムHP
<http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/forum/>

印 刷：(株)青孔社

CONTENTS

-NOTICE

- About the management plan concerning web publication of the Newsletter of Committee on Historical Studies in Civil Engineering SUZUKI Kei 1

-FORUM

- Why is it civil engineering heritage before the early modern times now? BABA Syunsuke 2

-LOCAL NEWS

- To inherit Cultural Landscape of the Shimanto River valley to the future YANO Yumiko 4
- Save a living witness of the Tokyo subsidence INOU Hiroshi 5

-Civil Engineering Works on Latest Heritage Registration List

- KITAGAWA Daijiro 5
- and ABE Takahiro 5

-REPORT FROM CHSCE(Committee on Historical Studies in Civil Engineering)

- Report on the 29th Annual Meeting of CHSCE 7
- Information of the 30th Annual Meeting of CHSCE (CHSCE) 7

-BOOK GUIDE

- YOKOMATSU Muneharu 8